

# 班別活動報告

## 1班 私たちのワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)

「ワーク・ライフ・バランス」いわゆる「生活と仕事の調和」が図られていない時、その背景に男女の性差が関係している事が多い。

女性も男性もすべての人が、自らの能力を最大限に発揮するための機会が得られる社会にしていくために、何が必要か。

具体的に、市民に向けての啓発を図るきっかけとなるよう、身の周りにいる人々のワーク・ライフ・バランスに関わる問題点から、男女共同参画を考える材料を提示する。



《リーダー》  
中村 京子

《サブリーダー》  
山田千恵美

《メンバー》  
上條 孝子／末木美津子／関 和美  
柳本タカ子／渡辺 貞男

### \*\*\* 班活動の軌跡 \*\*\*

- 2020/ 9 自己紹介・コロナで変わったワーク・ライフ・バランスについて
- 2020/10 コロナで変わったワーク・ライフ・バランスについて(家庭編)意見交換
- 2020/11 コロナで変わったワーク・ライフ・バランスについて(仕事編)意見交換
- 2020/12 意見交換のまとめと今後についての話し合い
- 2021/ 1 甲府市市民意識調査の読み合わせと、身近な声を拾いあげる調査を検討
- 2021/ 2 「家庭・地域・職場で感じる男女差について」身近な声を調査
- 2021/3・4 全体で行う会議があったため班活動はなし
- 2021/ 5 ワーク・ライフ・バランスを具体的に市民に向けてどのように啓発するかを考える
- 2021/ 6 ワーク・ライフ・バランスの観点から「見えない家事を可視化する」パネルを作成
- 2021/ 7 令和2年版内閣府男女共同参画白書「特集：ワーク・ライフ・バランス」読み込み
- 2021/ 8 新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため班活動中止
- 2021/ 9 第7期活動報告書紙面構成に関するミーティング
- 2021/10 1班活動のまとめ「パネル」について
- 2021/11 1班活動のまとめ「活動報告会」について
- 2021/12 活動報告書更正

## 報告～コロナの現状を肌で感じて～

私たちが経験した、コロナ禍での「ライフ」や「ワーク」の変化

### \* 自治会活動では

自治会、連合会の行事のほとんどが中止で、**組回覧の内容も行事中止のお知らせが大半を締めているという状態**が今もまだ続いています。

私が担当している愛育会においても、声かけ、見守りといった活動が思うように出来ず、甲府市の委託事業も再開時期の見通しがまだ立っていません。

**感染対策で身体的距離を確保しなければならない中、人と人とのふれあいが薄れている**のを感じます。

そんな中、2021年9月末、地区のある自治会長の呼びかけと連合会の協力で、しっかりとした感染防止対策をとりながら、荒川付近の桜公園の清掃が行なわれ、100名近くの参加者が集まったそうです。

コロナ禍の中でも、**地域にあった活動のアイデア**を日々模索し、行動に移していけたらと思いました。

### \* 介護の現場では

当初、コロナが流行しはじめての頃は、マスク、手袋の不足が叫ばれていましたが、私の勤務先は、幸いなことに、備蓄と寄付で不足することなく介護ができました。

**コロナが流行し、家族と直接触れ合ったり声を交わしたりができない中、ガラス越しでの面会の実現や、ホームページに元気な姿をマメにのせたり、施設だよりで対応しました。**「コロナが収まったら、外でご飯を食べたり外出したりしようねえ」と、利用者に話してきましたが、2年近く経つ未だに実現していません。私達職員も、手洗・うがい・消毒・マスクと、外出するときは最善の注意を払い、職場に絶対にコロナを持ち込まないよう努力してきました。おかげさまで、私の職場ではコロナ陽性者が出る事なく過ごせています。

今では、検温1日4回、ゴーグルやマスクや手袋の着用を日常のこととして、日々気を付けて、高齢者に対応しています。2021年10月現在、かなり陽性者数が減少していますが、この少し落ち着いている間に、来月は利用者の皆さんと紅葉ドライブの実現を検討しています。**1日も早くコロナが終息して、気兼ねなく人々と触れ合える普通の生活が送れるように、心より願っています。**

### \* 個人の家庭では

私の家庭ではコロナ禍で外出の機会が減り、家で過ごす時間が増えたため、**休日には夫が食事を作ることが多くなりました。**普段とは違うメニューを味わえたり、手作りスイーツを食べられたりし、さらに**自分の時間が取れてうれしい**です。また、近くのカフェに足を運ぶことが多くなり、心に余裕が生まれました。

そして夫のリモートワークが増えたことで、夕食の時間をゆっくり取れるようになりました。**家族での会話の時間が増え**、娘の学校の様子を知ることができたり、お互いの興味の話で盛り上がりつつあります。学校行事等が減ってしまい、残念なことも多いですが、家族で過ごす時間が増えて話題が広がったことで、**社会問題についても考えることが多くなりました。**

## \* 男女共同参画推進委員会活動では

コロナ禍前は、推進委員会として委員全員が同時に集まることができて、**NWEC（国立女性教育会館）でワークショップを開催したり、各地開催の日本女性会議に参加したり、委員会としての研修や推進活動を皆で一緒に行うことができて、委員同士の新たな交流も生まれましたが、コロナ禍で状況は一変してしまいました。**

2020年4月から7月は見通しの立たない**コロナ禍**で不安な中、30名以上の委員が同時に集まることができず、**推進委員会の活動も延期が繰り返されました。**その後も、コロナの波が来るたびに活動が中断され、去年までのような啓発活動に地域に出て行くことも叶わず、推進委員として残念な思いをたくさんしました。

**日本女性会議 2021 in 甲府**も、会場となる甲府に全国から男女共同参画活動を進める皆さんに集まってもらえるのがギリギリまでわからず、9月はじめに**完全オンライン開催**が決定となって、全国の皆さんとの交流が実現しなかったのが本当に残念でした。

その一方で、直接会えないなら、どういう工夫ができるか、皆で知恵を出し合って、少しでも良いものを日本女性会議にオンライン参加してくださる皆さんに経験してもらえるよう、日本女性会議の**第二分科会**に関わる皆でチームとなって実現を目指したのはかけがえのない経験となりました。

コロナ禍がなければ、**zoom 利用で遠隔地の皆さんと意見を交わすことができる**と知ることなかったでしょう。その意味では、世界が広がったとも言えます。

## \* 孫の大学生の様子は

自分の望む大学の門をくぐる為に3年間頑張ってきた高校生活、そしてやっと掴んだ夢と希望の大学生活、でも**現実とは全く違うスタートとなりました。**コロナという私も長い間生きてきて初めて聞く感染症の為に、日本が世界が一変してしまいました。世界中みんなマスクをしている異常ともいえる日常。日本の子ども達も卒業式、入学式という**人生に一度しかないイベントも中止になり、今まで普通だったことが全く出来なくなりました。**

うちの孫も一人暮らしを始めるために部屋を決め生活道具も揃え、胸を躍らせていたのですが我慢の連続の日々のスタートになりました。新しくできるはずだった大学の友達とは会うこともできず朝からオンライン授業、**教授たちも慣れないオンラインの操作に試行錯誤だったようです。**いったいこの状態がいつまで続くのか？誰にも分らないまま1年近く続き、**本当に自分は大学生になったのか？考える姿もみられました。**不安やいらだちが、少しでも和らぐように家族もできる限りラインや電話をして孫が声を出して話すようにバックアップしました。

ワクチン接種が進むにつれ、コロナ感染者が少なくなりこのまま終息することを心から祈ります。一日も早く大学生も普通の生活ができるように、**キャンパスで笑って友と話ができることを願っています。**

## \* 飲食業では

飲食業関係では店を維持管理していく事がとても大変になり、**ダブルワークを始める店主もいれば、店を閉める店主も出ました。**山梨県のグリーンゾーン認証を取得するのにもメール添付など高齢者の店主は行うことができず、取得を諦めるケースもありました。

また、新基準の「変異株対応のやまなしグリーンゾーン認証」の認証取得には空気清浄機などの高額な機器購入が必須で、それに対する県からの給付金は購入証明を提出後のため、ハードルが非常に高いと嘆く店主もいますし、新たなグリーンゾーン認証のガイドラインを知って**店の継続を諦め閉店する店主**もいます。コロナ禍が始まり約2年になりますが、**コロナ前のような景気は戻る様子は全くなく、飲食業者はいまだにダブルワークで凌いでいる店主も多いようです。**

## \* 観光業では

山梨のホテルは、マスクやフェイスガードの着用や、非接触型温度計の設置やアルコール消毒の利用が勤務する人にとっては当たり前のことになりましたが、小さい声だとお客様がこちらの説明が聞こえづらいようだし、こちらが笑顔で接しても相手には伝わりにくくて、寂しい気持ちになります。でも、**お客様が利用して下さるだけでもありがたい**気がします。

一番大変なことは、宿泊客が少ないため、勤務日も当然減ることになり、**ホテル以外のダブルワークをしなければならない**ことです。勤務日の減少で給料はコロナ禍前の半分近くに下がってしまいました。食材も余分に発注することも余らせることもできず、お客様が密にならないように気を配りつつ、自分が大声を出さないようにしなければならず、本当に対応が大変でした。

9月までの緊急事態宣言が解除されてからの方が、さらに急激な訪問客増に対応するのに、現場は本当に大変です。

## パネル「見えない家事・育児」

### ① 「見えない家事・育児」

#### ■見えない家事とは

家事というと「料理」「洗濯」「掃除」のようなものを思い浮かべるでしょう。しかし、洗剤の補充、ストックの管理、夕飯の献立を考えるなど、細かな家事には明確な名前のないものがほとんどです。このような家事のことを「見えない家事」といいます。

## 見えない家事を考える

R3年6月「パネル展」にて来場者の方にも見えない家事を考えていただきました。



さらにネットで検索

#### 【コロナ禍での(新)名もなき家事】 ダイワハウス調査

- ・ マスクの手洗い
- ・ 手やテーブルなどの消毒
- ・ マスク・消毒液・ペーパーの在庫管理・補充
- ・ 検温や家族の体調管理
- ・ 子どもへのマスク着用の管理(屋外では外していいなど)
- ・ テレワーク中の配慮



最近では、共働き夫婦も増え、女性が家事をするというものだという意識は薄れてきています。しかし、依然として家事・育児の負担は女性に偏っているのはこうした見えない家事を女性が担っているからではないでしょうか。このような「見えない家事」も夫婦で分担していくことで、家庭内での男女共同参画が進んでいくでしょう。

# 班別活動報告

## 2班 SDGs

SDGsは、新聞やニュース等、社会のいろいろな場面で目にすることが多くなりました。しかし具体的な内容については学習する機会は多くありません。SDGsの目標は1から17(169のターゲット232の指標)と多くありますが、こうふ男女共同参画プランで賛同している目標3・4・5・8・11・17を中心に学習し、推進委員として、男女共同参画社会の実現に向けての活動や地域社会への啓発活動をするためのエンパワーメントを身につけることができればと考え、班活動を始めました。



《リーダー》

清水 正

《サブリーダー》

米山夫佐子

《メンバー》

秋山美代薫／井尻真理子／奥田 正治

小野明日香／川邨 靖／後藤 貴仁

酒井 大介

班活動をする前に、推進委員にアンケートをしましたところ、多くの皆様の協力により回答をいただき、SDGsに対しての皆さんの関心の高さを感じました。

班活動における学習会は、前期(令和2年度)は、後藤委員に講師をしていただき、第1回「SDGsの全体について」第2回「SDGsの目標5・8・11について」第3回「SDGsの目標3・4・17について」と小野委員の講師で「LGBTについて」が開催され、第4回は、「第1回から第3回の学習会を終えて」と班員の皆さん全員に、SDGsに対して個人や会社においての具体的な取組例や今後の活動に向けての発表をしていただきました。

例えば

- ・SDGsを学び、ごみの分別・買い物での車の使用等、より環境問題について考えるようになりました。
  - ・VF甲府では、紙コップに代えてリユース容器をスポンサーの協力により使用し、当時の小泉環境大臣にも講演会で紹介されるような活動にも取り組んでいます。
- ほか、多くの取組や活動例が発表されました。

後期(令和3年度)は、前期のSDGsの6つの目標について学びを終えたところで

- ・普段の生活のどんな事がそれぞれの目標に当てはまるのか？
- ・目標の達成に向けては具体的にどんな活動をすればよいのか？

等を考えながら「誰一人取り残さない」という基礎内容と男女共同参画社会実現のための目標5「ジェンダー平等を実現しよう」をターゲットごとに具体例を紹介する啓発活動用のパネル作成を行いました。

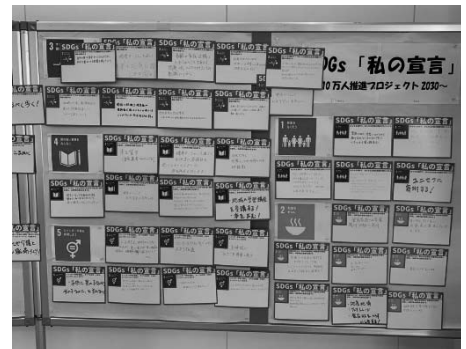
また6月21日から25日まで、市役所の1階市民活動室において、男女共同参画週間のパネル展が開催され、22日23日には、後藤委員による「SDGsのミニ講座」を開催し、多くの市民の方、推進委員の方にも集まっていただき「SDGsの私の宣言」も多くの皆さんに記入していただき好評のうちに幕を閉じることができました。また甲府一高生徒の制作したSDGsのカルタも展示し、関心を集めて見ていただきました。

前期(令和2年度)は班活動を中心に、後期(令和3年度)は班活動と全体活動を並行して行いました。

SDGs(持続可能な開発目標)アンケート集計  
令和2年11月10日現在

6月20日~6月25日  
男女共同参画週間のパネル展  
(市役所1階市民活動室にて)

<b>① SDGsの言葉を聞いたことがありますか?</b>		
1	言葉を聞いたことがある。	22
2	言葉を聞いたことがない。	4
<b>② ①の質問で2と回答した方にお聞きします</b>		
1	機会があれば、すぐにでもSDGsについて学習してみたい。	2
2	すぐにはSDGsについて学習する予定はない。	2
<b>③ ①の質問で、1と回答した方にお聞きします</b>		
1	言葉も、その内容も知っている。	12
2	言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない。	10
<b>④ ③の質問で、1と回答した方にお聞きします</b>		
1	普段の生活においてもSDGsの目標について考え、自分のできる範囲で実践している。	7
2	SDGsの目標について考えることはあるが、なかなか実践できない。	6
<b>⑤ ③の質問で2と回答した方にお聞きします</b>		
1	「第3次こうふ男女共同参画プラン」でSDGsに賛同する目標があることを知っている。	9
2	「第3次こうふ男女共同参画プラン」でSDGsに賛同する目標があることを知らない。	6
<b>⑥ SDGs(持続可能な開発目標)の2030年までの目標達成のための取組は、国や会社はこれからもより進めていくと思われますが個人としては?</b>		
1	個人としても進めるべきである。	24
2	個人としての影響は少ないので、それほど考える必要はない。	2



甲府市男女共同参画推進委員会は、「第3次こうふ男女共同参画プラン」でSDGsの次の6つの目標に賛同し、活動に取り組んでいます。班員の皆さんの班活動を通しての感想・意見とパネル展参加者より提出していただいた「私の宣言」より目標ごとにまとめました。



### 目標3 すべての人に健康と福祉を

(あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する)

高齢で1人暮らしの方は孤独になりがちなので、安価な補聴器やらくらくスマホで人との交流が多くなれば良いのではないかと

コロナ禍において、他人に感染しない策を施す。また自分が感染しないようマスク着用 手洗い励行 3密回避

子どもが身体障害者1級だが補助金等は成人対象のものがあって困っている時使えないことも実感した

自分自身が高齢者運転に該当する際対応をどうするか自問中。ただ県内は路線バスの本数減少が現状

自治会での集団活動時、各自の禁煙の協力依頼



## 目標4 質の高い教育をみんなに

(すべての人々への、包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する)

発展途上国への初等教育への支援呼びかけと、我が国の経済格差が教育格差にならないような工夫(スタディクーポン等)をし、若者への投資が大事である

ターゲット4.7「…人権、男女平等、平和及び非暴力的文化の推進…」  
広義に解釈すれば、孫に対しこれらの道徳を教育中

学校は週休2日だが、コロナとなり休校が多くタブレットを使用した授業が最近はあるが、運動会等学校行事が中止や縮小され、子ども達の学力がとても心配であり、この境域は質が少ないよう感じます



## 目標5 ジェンダー平等を実現しよう

(ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う)

男は仕事、女は家庭、というバイアスを変えるには、女性がより社会に関心を持つことが大事で、その一助として地上波の質を高めて表面的や偏った報道噂話に振り回されず、女性の議員数の増加にはクオータ制の導入が必要と思われる

2世帯同居に伴い、育児(道徳教育も含む)を週末等出来る範囲で行っている。勿論「家族の義務」との認識である

女性経営者や管理職がまだ少ないが、女性ならではの観点を生かし男性社会へ進出する事で場を明るくしたり和ませることができます。今以上に女性自身も男性社会へ進出することにより今まで考えられなかった事ができる場合があると思います



## 目標8 働きがいも経済成長も

(包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用「ディーセント・ワーク」を促進する)

消費税、非正規社員、様々な問題はあるが、まずは男女の賃金格差を無くすことで他の変革に繋がっていくと思う

女性を巡る諸制度、特に相続法分野に関する啓もうを図り、その利活用の促進によりジェンダー平等に寄与するとともに、新たな経済環境を産むことを標榜する



## 目標11 住み続けられるまちづくりを

(包摂的で安全かつ強靱「レジリエント」で持続可能な都市及び人間居住を実現する)

地域作り会議を老若男女で話し合う事ができたら良い。生活のリフォーム、花を植える、ゴミを出す等SDGsを意識し住みやすい地域作りにつなげる

子どもの遊び場がない。公園などで遊んでいるとうるさいと言われ、外で遊ぶことが困難。結果的に子育てが大変



## 目標17 パートナリシップで目標を達成しよう

(持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する)

2030年まで9年。目的達成のため行政、企業、NPO、市民が現状と展望の意見交換を行い、一般市民に公開報告(テレビ、ラジオ、新聞、広報)をし、問題点や意見を集め、更に議論を交わし対策を練る

## 2年間の活動を終えて

### 秋山美代薫

コロナ禍でしたが、SDGsを深く学ばせていただき充実した班活動でした。またNWECフォーラム、日本女性会議刈谷、数々のオンライン学習会から新たな刺激をいただき、ジェンダー平等社会実現の重要性を痛感しました。日本女性会議甲府開催という歴史的な時に委員会に参画できたことは最高の思い出になりました。

### 井尻真理子

SDGsについて理解を深めたかったので2班に入りました。SDGsは、広くて、深くて、でも誰でもできる簡単なことでもあります。自分以外の誰かのために動いたり、環境のために何かができたら、それはSDGsの活動であると学びました。推進委員として、今回学んだことを活かしていきたいです。

### 奥田 正治

長く教育という世界に身を置いており、SDGsは意識していましたが、男女共同参画という視点からアプローチできたことは大変プラスになりました。2年間の反省も込めて、今後は地域への啓蒙とESD(持続可能な開発のための教育)の充実に取り組みたいと思います。

### 小野明日香

SDGsで5番目「ジェンダー平等」について関心がありました。私はトランスジェンダーで男女の両方の目線で見た感想です。日本の場合SDGsで言うジェンダー平等は該当しません。ただ私が言えることとして性別に甘える人が多いということ。女性の社会進出がなぜ数少ないのか、男性が女性を見下して女性のトップを望まない又は、そういう女性の足を引っ張ろうとする。女性自身も女だから出来ないといって逃げてしまうことが両方の性別を生きている私には見えています。今の私は自分の生き方を社会に発信して、性別ではなく人として生きられる社会のために発信活動をしていきます。

### 川邨 靖

男女共同参画の観点から、例えば「夫婦」の場合は「お互いの立場を尊重しながらお互いが出来ることを行動に移す」このことが基本ではないでしょうか？今回旬のキーワード「SDGs」に関し学べるよい機会でした。しかし、本委員会で得た事柄を地元地区へフィードバックすることができず、悔やまれるところです。今後何かの折に、地元地区への展開を図りたいと考える次第です。関係各位の皆様には、2年間有難う御座いました。

### 後藤 貴仁

委員会の目的の一つに、活動により得た知見を市民の方々に伝えるという責務があると思慮するが、コロナ禍もあり、それを果たすことが出来なかったことを反省する次第です。

### 酒井 大介

これまで漠然と捉えていたSDGsについて改めて基礎から学ばせていただき、大変ためになりました。守るべき対象を「誰一人取り残さない」だけではなく、取り組む側としても「誰一人取り残さない」ことを意識して、各団体や個人それぞれの立場で、そして日々の生活の中で、誰もがSDGsに取り組めるということを広く伝えていきたいと考えています。

### 清水 正

SDGsは2030年までの到達目標で、目標5を中心に「第3次こうふ男女共同参画プラン」での賛同目標を実現することは身近な一歩から始めることが大切だ、と学び、普段の生活や地域活動に学びを活かしたいと思います。

### 米山夫佐子

この2年間の学習を通し、最初難しく感じていた2015年9月に国連で採択されたSDGsも私たちの身近なところから始めていけることを知りました。問題意識を持ち続け、学んだことを家庭や地域社会に活かしていきたいと思います。



# 班別活動報告

## 3班 「DV」・・・これは犯罪です

甲府市は「甲府市配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援計画」を策定しています。男女共同参画社会を実現するための課題の一つである「DV」は重大な人権侵害であり、社会全体で取り組むべき問題です。

私たち3班は、このことについて学習し理解を深め、身近な問題として、広く発信していく事で、他人事ではなく、自分にできることは何かを模索しながらDV防止を啓発することにしました。



《リーダー》  
五味 明美

《サブリーダー》  
藤原 一三

《メンバー》  
今村ヒロ子／小澤 房子／菊嶋 慶彦  
神宮寺ヒロミ／高橋 俊徳／田中 克枝  
森 みどり

取り組みを始めるにあたって、

- ・それぞれが感じている、また身近に感じた事例等
- ・こんな事も「DV」？

についてそれぞれの意見をまとめるために、「ワークショップ」を2回開催し、多数の意見から暴力の原因・種類・問題点を絞り、その情報を基に今後の取り組みを決めていきました。その結果として「私達に出来る事」を目的に、パネルを作成し啓発の手段とすることとしました。

同時に**学習会**開催の計画を立て、その講演で学んだ事・ワークショップで出た意見をまとめ**パネル作成**を決定しました。

### \*\*\* 主な班活動の内容 \*\*\*

- 2020/ 9 自己紹介・3月までの活動予定や流れの説明
- 2020/10 「甲府市DV防止基本計画」について学習
- 2020/11 「DVって何?」「こんなこともDV?」「事例」について(意見交換)
- 2020/12 DV防止啓発活動について(意見交換)
- 2021/ 1 DVについて意見交換のまとめ
- 2021/2・3 ワークショップ
- 2021/ 4 ワークショップまとめ/学習会「DVについて(基礎的知識と対応)」
- 2021/6～9 パネル内容検討
- 2021/10 活動報告書内容検討
- 2021/11 パネル仕上げ作業
- 2021/12 活動報告書更正・活動報告会について

## ワークショップ

- 第1回 R 3.2.12(金)10:30～12:00『DVの知識・情報を共有し、整理する』
- 第2回 R 3.3.12(金)10:30～12:00『情報を基に取り組む内容を決める』
- 第3回 R 3.4.16(金)15:00～15:30『ワークショップまとめ』

### ①チーム

【女性の健康】更年期・生理・疲労

【人権を無視した行為】これはDVです

DVは重大な人権侵害です

【これは暴力?】健康な夫婦関係とは(話し合い)

感情をコントロールする(ストレス解消)

【家庭のお金に関すること】共有財産と固有財産

【相談窓口の周知】



### ②チーム

・お金を少ししか与えない

・DVの認識がない

暴力を悪いと思っていない

暴力だと思っていない(無視・お金を渡さないのも暴力です)

・自分をコントロールできない

暴力を悪いと思ってもやめられない

ストレスのはけ口が暴力につながっている

・自分が悪いと思ってしまう

被害者側の認識を確認しよう

受けていませんか?暴力・・・こんなことも暴力です

自分が悪いのではない

・相談するところがない

相談場所の紹介

地域のコミュニティの必要性



## 学習会

DVについて正しく理解するため、DV被害の実態や女性相談所の役割と被害者支援についてお話しいただきました。



日時：令和3年4月16日(金)13:30～15:00

場所：甲府市役所本庁舎 6階 大会議室

講演：「DVについて(基礎的知識と対応)」

講師：守屋法子さん(山梨県女性相談所所長)

参加委員：23名



アンケート(抜粋)

- ・分かりやすい説明でDVの実態が分かった。特に興味を持ったのは「被害者がなぜ逃げないか」という問題。
- ・加害者心理と被害者心理、多くの実例をあげての話で参考になった。
- ・被害者が安全で健全な生活が送れるよう、相談窓口等の必要な情報を周知・啓発して行く事が大事だと思う。
- ・偏見や先入観を持たないで被害者の立場に立つ姿勢で「傾聴」し、相談機関等の情報提供が出来る様に心掛けていきたい。
- ・女性差別の解決は、先ず賃金格差から是正してほしい。
- ・幼少期からの教育が大切だと感じた。
- ・女性相談所の役割と被害者支援の内容もよくわかり、推進委員としてやる事・出来る事が明確になった。

# パネル作成

2回のワークショップと学習会を受けて、3班ではDVについての認識を正しく理解してもらうこと、相談窓口の紹介や地域コミュニティの必要性を周知することが必要ではないかと考え「私達に出来る事」としてパネル作成に取り組みました。



内容検討中



貼付け作業中

【パネル1】

## DVとは配偶者等からの暴力です。

こんな風に思っていないですか？

夫婦喧嘩でしょ？  
暴力を振るう人は元々乱暴な人でしょ？  
される側にも原因があるんじゃない？  
家庭の奥に他人が立ち入れないわ  
それは違います！！

## DVは犯罪です

どのような理由があってもDVは絶対に許されません。

**身体的暴力**

なぐる・ける  
物を投げつける

**性的強要**

行為を強要する  
避妊に協力しない

**心理的攻撃**

暴言・無視  
脅す

**経済的圧迫**

生活費を渡さない  
仕事を制限する

**被害者への影響**

あざ・けが  
不安・うつ  
など

**子どもへの影響**

おびえ・ストレス  
成長への悪影響  
など

**母子関係への影響**

絆が弱まる  
など

【パネル2】

**被害者**

被害者はなぜ逃げないのか？

被害者は相手の行為が「暴力」で自身は「被害者」であるという自覚が持てなくなる

**バクハツ期**

感情や暴力が爆発する

**ラフラフ期**

謝罪したり別人のように優しくなる

**【DV負のループ】**

イライラ期 → バクハツ期 → ラフラフ期 → イライラ期

イライラしたり不機嫌になる

**別れられない理由**

- ◆ 子どもがいる(妊娠した)から
- ◆ 経済的不安があったから
- ◆ 世間体が悪いから
- ◆ 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから
- ◆ 相手には自分が必要だと思ったから  など

**加害者**

**支配** 気持ちの押しつけ、思い通りにしたい

**正当化** 自分を理解できない相手が悪い

- 怒りをぶつける=暴言・暴力
- 許可していない行動・態度を許さない=監視・行動制限
- 究極の支配=殺人

**加害者の心理**

**加害者の心理が強くなる背景**

- ✓ スマホやSNS→返信がないと不安や怒り
- ✓ 家庭内のごと→周囲に気付かれない
- ✓ 勘違いの恋愛観→支配・束縛は愛情

【パネル3】

## DVは絶対×ダメ許されません！！

もし身近に悩んでいる人がいたら

気になることがあったら

**相談窓口があります**

名称	電話番号	場所・相談時間等
甲府市女性総合相談室	055-223-1255	【電話相談】【面接相談】(祝祭日を除く) 月～木 9:00～16:00 金 9:00～19:00
女性相談所	055-254-8635	【電話相談】 平日 9:00～20:00 【面接相談】 平日 9:00～17:00
男女共同参画推進センターびゅう総合	055-237-7830	【電話相談】 9:00～17:00 【面接相談】 9:00～16:00 (第2・第4月曜日を除く)
山梨県警察総合相談室	055-223-9110	24時間受付 (土日、祝日、夜間は警察署の(日)番通報窓口が対応)

**このマークの意味を知っていますか？**

**女性に対する暴力の根絶のためのシンボルマーク**

DVの問題に対する社会における認識をさらに深めてもらうためのシンボルマークで、女性が腕をクロスさせた姿をモチーフにし、女性に対する暴力を断固として拒絶する強い意志を表しています。

**パープルリボン**

女性への暴力の根絶を訴えるアウェアネスリボン。パープルリボン運動は1994年にアメリカ合衆国ニューハンプシャー州のペルリンで始まり、日本ではNPO法人全国女性シエーターネットワークが中心となり、活動を展開しています。

## 2年間の活動を終えて

### 今村ヒロ子

長期化するコロナ禍の中で延期、中止せざるを得ない状況での活動は少し残念に思われましたが、そんな中での班活動は、少人数なので意見交換しやすく、考えや思いを共有でき、多くの事を学習し、気づかせて頂きました。これからはこの経験を礎にして、地域の人達の手助けになるよう活かしていきたいと思えます。

### 小澤 房子

DVは私自身、些細な事ことで反省すべきところがあったことに気づかされたことはとても良い機会だったと思っております。コロナ禍で制限がある中、委員同志の繋がりが薄く寂しい感じがいたしましたが、今年度は日本女性会議で推進委員として参加出来たことは大きな学びをいただきました。皆様に感謝しております。ありがとうございました。

### 菊嶋 慶彦

3班は五味さんを中心に活動を行い、みんなで意見を出し合い、解りやすい「DV防止パネル」を完成させ、展示する事ができ、満足感を共有することができました。これからの男女共同参画活動は、若い人たちも含め多くの人に参加できる方法を考え、土日や夜間の会議を考えなければ、ならない時期に来ていると思えます。

### 五味 明美

2年間、推進委員として活動の制限がありましたが、DVという根深く見えにくい難しい問題を班の皆さんと学習、共有し、改めてDVは人権の問題、人として生きる上での基本的問題だと確信しました。推進委員として役割を認識し「気づき」声を上げていくことの大切さを学びました。

### 神宮寺ヒロミ

DVは「そんなに辛いなら別れればいいじゃん」と簡単に思われがちですが、子どもの事や世間体の悪さ、自立への不安そして繰り返されたDVによる逃げ出すことへの恐怖心や自己否定感等で逃げるに逃げられない深刻な事情があると知りました。そしてDVは子どもにも多くの影響を与え、大人に成長した時にパートナーへのDV行為や可愛いはずの我が子への虐待にも繋がるといえます。DVは人格が壊れる絶対にあってはいけない犯罪だと思えました。

### 高橋 俊徳

新型コロナウイルス感染拡大の中、第7期「男女共同参画推進委員会」の総会が書面にて決議されスタートしましたが、定例会が幾度となく中止となり委員の皆さんの顔と名前が一致しないまま班編成が行われ、3班では『「DV」それは犯罪です。』をテーマに意見交換・ワークショップ・研修会を重ね、何とか班のまとめができた感があります。コロナ禍の中、家庭内ではDV被害が多くなっていると聞きます。今後は、地域で相談機関の情報提供等、微力ながら被害減少するよう努めていきたいと思えます。2年間ありがとうございました。

### 田中 克枝

男女参画の行事参加させていただき、価値観がとても変わったことを強く感じました。最初は堅苦しく思い、ただ出席するだけでいい本当に形だけでした。しかし何回か話し合いに触れていく中で、自分を大切にしていくことの重要性を知り、少しでも差別のない世の中に、私ができることはさせていただきたいととても強く思いました。

### 藤原 一三

委嘱状を受領して以来、推進委員の役割とは何だろうと自問する日が続き、何回か活動会や講演会に参加するうちにその疑問も、他の推進委員の男女平等に対する活発な議論の熱気のうちに自然に氷解していったように思えます。しかし社会や地域や家庭内における男女の役割、格差、不条理は、一人の力では限界は否めず、行政や関係機関等の連携、協力が不可欠だと感じました。日頃思っていることを直接議論しあい、一つの目標設定をし、それに向かって、他の多くの人々に働きかけ、自分に出来ることを愚直に実践することだと認識するに至りました。

### 森 みどり

「日本女性会議 2021 in 甲府」にリモート参加し37年の自治体と市民団体の協力で得られた活動の成果に感動しました。DVという難解な内容に取り組み、DVが生み出すプロセスや被害者・加害者の心理等、多くを学びました。男女共同参画社会実現のため、意識を持ち続けることから行いたいと思っております。

## 班別活動報告

### 4 班 DV について知っていますか

～ 山梨県・甲府市の支援体制について～

第3次「こうふ男女共同参画プラン」及びプラン別冊「甲府市配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援基本計画」に基づき、甲府市等の現状と施策を学習し、委員相互の意見交換を通じてエンパワーメントを図るとともに市民への情報提供・啓発活動を実施する。



《リーダー》

小林 清巳

《サブリーダー》

小川はるみ

《メンバー》

今橋あけみ／小笠原 稔／大窪真由美

落合 洋子／佐藤 峰子／内藤 司朗

矢崎真由美

### ＊ ＊ 活動と学習の記録 ＊ ＊

- 2020/ 9 グループ分け・役割分担・今後の日程・その他（連絡網作成）
- 2020/10 グループ別打合せ（活動計画・目標設定）・まとめ
- 2020/11 グループ運営について・まとめ
- 2020/12 DV 学習会について・DV 聞き取り訪問先について・山梨県 DV 統計整理
- 2021/ 1 「女性保護事業のあらまし」（山梨県女性相談所発行）について・活動目標について
- 2021/ 2 **2/5 第1回 DV 学習会**  
2/9 活動のふり返り・学習会をうけて（意見交換）
- 2021/ 5 令和3年度年間計画について・DV 学習会について
- 2021/ 6 パネル展について・活動報告書について・写真撮影
- 2021/ 7 7/13「女性に対する暴力をなくす運動」期間に実施する活動について  
**7/28 第2回 DV 学習会**
- 2021/ 9 学習会をうけて（講座報告）・パネル展について
- 2021/10 活動報告書等について・4班パネルの原稿について
- 2021/11 パネルの作成
- 2021/12 活動報告書校正

私たちは、少人数単位で自立的な活動を目標に計画をスタートいたしました。当初は、山梨県配偶者暴力相談支援センターやNPO法人クローバーへ、聞き取り訪問したいと進めていきましたがコロナ禍で大幅に計画を変更せざるを得なくなりました。活動が思うように進められない中でも、学習会を2回開催し、多くの学びを得ることが出来ました。

# 実施報告



## 第1回 DV 学習会

1 回目の DV 学習会では講師に臨床心理士で山梨大学学生サポートセンターカウンセリングサポート支援室の伊藤美佳さんをお招きして「DV(児童虐待等)被害者支援に協力できること」「コロナ禍がDV等、被害者に及ぼす影響」についてご講話いただきました。

日時：令和3年2月5日(金)13:30～15:00

場所：甲府市役所本庁舎 4階 本部長会議室

参加委員：20名(女性15/男性5名)



被害者と加害者には何が必要とされているのか。アンケートから、**傾聴の大切さ**というご意見が多くありました。伊藤先生は、「**被害者の心に寄り添い、言葉を信じ事実を真剣に受け止め、共感を心掛ける、しかし客観性を保ちながら見返りを求めない支援を申し出る、被害者の良きアンカーとなれるよう心掛けます。**」と話されました。一言に傾聴と言っても、傾聴者が被害者を思いやりの言葉が返って相手を傷つけてしまう恐れがあることも知っておく必要があります。一方、加害者についてもなぜ暴力を振るってしまうのか？どうすれば怒りをコントロールできるのか？加害者の中にはこんなことに悩んでいる人もいます。加害者を闇の中から救い出すために「**更生プログラム**」が必要です。

**DVを根絶するために必要な事**は何か、それは**子ども達への教育**です。今起こっている現実問題を解決することも大切ですが、未来を背負う子ども達の中から被害者や加害者を出さないようにするために私たちのすべき事は、DVとは何か、子ども達に考える機会をつくる事です。学校教育は勿論ですが私たちが日ごろからDVに対する知識を持ち家庭内であるいは地域で、機会あるごとに、子ども達に知らせる事が重要です。



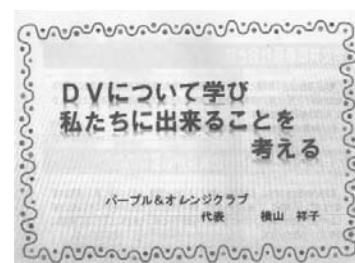
## 第2回 DV 学習会

2 回目の DV 学習会では講師に元山梨県男女共同参画課長、山梨県男女共同参画推進センター館長などを歴任され、現在はパープル&オレンジクラブ代表の横山祥子さんをお招きして「DVについて学び私たちにできる事を考える」についてご講話いただきました。

日時：令和3年7月28日(水)13:30～15:00

場所：甲府市役所本庁舎 6階 大会議室

参加委員：23名(女性17/男性6名)



家庭内で起きるDVはその性質上外へ出にくく、**密かに時間をかけて進行してゆく**ケースが多く、被害者は深い傷を負っています。**被害者にとって暴力からの脱却は長時間を必要とし、自らの力だけでは困難な状況が少なくありません。**そのため、**相談センターの存在が不可欠**となり、これらの**窓口の存在を周知**する事が重要です。多くの人がその存在を知る事で身近なDVに気付くきっかけにもなります。こうした機関では金銭的な援助も可能であり、加害者から逃げる力にもなっています。また、地域住民は支援センターの存在を知り、疑いがある時にはためらわず通報する事がDVの深みから被害者を救い出すことが出来るという事を理解し、**黙過することなく勇気をもって通報すること**です。地域力やご近所付き合い力がDV撲滅の強いパワーとなり、私たちはこのようなことを広く周知させることが重要です。



# DV・デートDVを未然に防ぐための教育・啓発（パネルより）

### 暴力のイメージ

**暴力=支配=人権侵害**

安全・安心・自由を奪う

相手の主体性を奪う

自己決定・自信・成長

#### DVの暴力の種類

行動の制限(社会的隔離)  
精神的暴力  
身体的暴力  
性的暴力  
経済的暴力

- 行動の制限・メールアドレスをチェックし、削除する。  
・外部との接触を制限する。
- 精神的暴力・人格を否定する。無視する。命令する。  
・思い通りにならないと不機嫌になる。
- 身体的暴力・怒鳴る。殴る。蹴る。平手打ちをする。  
・床や壁に体を押し付ける。
- 性的暴力・同意のない性的行為をする。  
・恋人や夫婦ならセックスに応じるべきと言う。
- 経済的暴力・お金を取り上げる。借りたお金を返さない。  
・自分の経済力を使って言うことを聞かせる。

※こんなこと・・・していない？されていますか？

夫や恋人の言う事が絶対で、最優先にしないと不機嫌になる。

それが当たり前だと思っていないですか？それは思い込みや勘違いです！

★気づくことが大切です。被害者が出る前に！  
注意喚起・啓発こそ、私たち推進委員の役目です！

## DV・デートDVを未然に防ぐための教育・啓発

性教育の  
必要性

### 「イエロー信号のはじまり」を見つける

#### (1) DV・デートDV被害にいたる構図

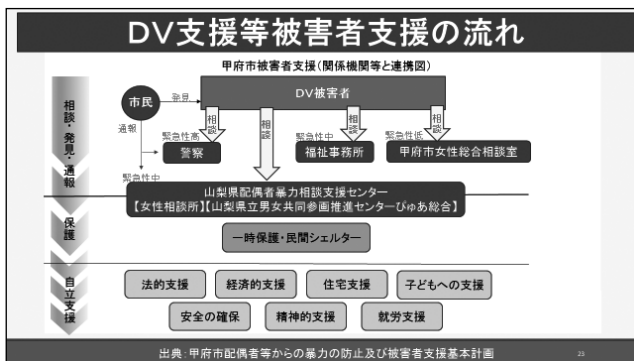
(見てきたように)

- ①「上下関係」をつくって、 ②「支配・被支配の関係」に陥らせる  
(地位としての上下) (リードする者される者)

#### (2) 被害が出る一歩手前で気づくこと ……<大切>

(つまり) ①の時点で、②の前に 注意喚起すること ……<大切>

- この 注意喚起 の啓蒙・啓発こそ、推進委員さんの役目



「DV にあっていたら、相談をして下さい。声を上げて下さい。」

各関係機関が連携を取っていることで、被害者が自立するための支援を受けることができます。相談センターの存在、窓口を周知することが重要で、多くの人たちがその存在を知ることによって、身近なDVに気付くきっかけにもなります。被害者の早期発見や自立支援に向けて、被害者のニーズに応じた適切な支援ができるよう関係機関との連携を深めます。

## ～推進委員として私たちにできること～

4班は「DVについて知っていますか？」をテーマに学習してきました。2回のDV学習会では、DVの現状や被害者救済の仕組み、支援の際の傾聴の大切さや注意点など具体的に教えていただきました。

甲府市男女共同参画推進委員会は、これまでDV防止啓発パネル展や街頭啓発活動を行ってきました。今後は推進委員一人ひとりが地域・学校・職場等で何ができるのか。推進委員の中には、ボランティア等で地域に貢献されている方々が多く在籍しています。この学びを糧として啓蒙啓発活動を実践していきます。

DVのない社会、誰一人として被害者・加害者・傍観者にならないために、啓発活動を絶え間なく実施していく事が、私たち推進委員の役割ではないでしょうか。

また、次世代に繋げていく事も大切です。子どもの頃からの人権教育の必要性「DVとは何か？」命を脅かす犯罪である事の認識、行政との連携が不可欠です。

## 2年間の活動を終えて

### 今橋あけみ

委員になり、この2年間常に男女参画を意識しながら生活していた気がします。そしてこの会で初めて耳にした「ジェンダー」「SDGs」。今では毎日、テレビ、新聞等で報道されているが、この言葉を知らなければ、耳に、目に入りませんでした。その意識を高められたこと、丁度今期は「日本女性会議 2021 in 甲府」を聴講でき、大変勉強になりました。

### 大窪真由美

自治会から推薦されて、何の知識もなく解らないまま、あっという間に2年が過ぎてしまいました。私の周りにはDV被害者という人がいないので遠くに感じていましたが、勉強していくとDVは身近に潜んでいて、声を上げられずにいることを知り、地域などで助け合えるネットワークを作っておき、恐れずに手を差し伸べる必要があると感じました。

### 小川はるみ

4班は個人学習を中心に月一回の班ミーティングで情報交換や進捗を共有しました。8名のメンバーは今期から委員になった方も多く、はじめはぎこちなかった運営も回を重ねる毎に少しずつ軌道に乗ってきたように感じました。時はコロナ禍の真ただ中。感染予防をしながら意見交換に加え学習会を行うことができ、被害者支援についてやDVの現状、被害者救済の仕組みを学ぶことが出来ました。また、私たちができること等のアドバイスもいただき貴重な学習の機会を持つことが出来ました。

### 落合 洋子

人とは知ることによって前に進むものだと感じました。活動を通して多くの事を知りました。さらりと読んでいた新聞記事、身体を通過するテレビの声、これらに眼を向け耳を傾けると、DVとそうでない行為との境界線が見えてきました。長くひとり親相談員を務めて参りましたが、対象者との会話の中からも「もしかしたらDV被害にあっているかもしれない」と感じることもあり、こうした時にはじっくりと耳を傾けるようになりました。些細な事ですが、2年間の活動の成果と感じています。

### 小林 清巳

7期はコロナ禍のため、当初予定していた活動が制限された状況が続きました。そんな中でもDVをテーマに班学習を進めてきました。研修や学習を通してより深くDVの根底にある物の理解を深めました。また、「日本女性会議 2021 in 甲府」に分科会運営メンバーの一員として参加出来ました。本当に良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。

### 佐藤 峰子

私は、娘が小学校の時のPTA役員を引き受けたのをきっかけに、男女共同参画について意識し始めました。そのような中、令和元年に自治会連合会の推薦により、「男女共同参画審議会」を引き受け、男女共同参画の実現は、行政のみで推進するものでなく、私たち市民の関わりが必要だと感じ、改めて推進委員として学習したいと思いました。コロナ禍の状況により少人数での班活動となりましたが、講演会等には積極的に参加し、学習の機会を得ることが出来ました。2年間、ありがとうございました。

### 内藤 司朗

2年間、講演やグループ活動を通じて、ジェンダー平等、DV・ハラスメント、LGBT、SGDsなど多くのことを学びました。「NWEC フォーラム 2021」で国連事務次長・軍縮問題担当上級代表の中満泉さんが「『ジェンダー平等』が人類を救う」と訴えましたが、この分野でも「シンク・グローバル・アクト・ロー・キャリア」(地球規模で考え、地域で=身近な行動)です。「理解を深めた男が一人増えた」ととどまっていたは「推進」委員の役割を果たせません。理解したことをどう周りに広げていくのか。地域でも「あらゆる決定の場面に男女がいる」風景の実現を目指します。

### 矢崎真由美

今期はコロナ禍で今までのような活動ができず、私自身は模索するうちに任期を終えた気がします。毎回の班活動では、熱心に取り組むメンバーに刺激を受け、一緒に活動できたことをありがたく思っています。ありがとうございました。



## 第 7 期 委員名簿

(五十音順・敬称略)

No.	氏 名	所属団体等	No.	氏 名	所属団体等
1	秋 山 美代薫	相川自治連	19	五 味 明 美	山城自治連
2	天 野 光 江	玉諸自治連	20	酒 井 大 介	公 募
3	井 尻 真理子	新紺屋自治連	21	佐 藤 峰 子	千塚自治連
4	今 橋 あけみ	相生自治連	22	清 水 正	北新自治連
5	今 村 ヒロ子	国母自治連	23	神宮寺 ヒロミ	公 募
6	大 窪 真由美	里垣自治連	24	末 木 美津子	千代田自治連
7	小笠原 稔	新田自治連	25	関 和 美	公 募
8	小 川 はるみ	公 募	26	高 橋 俊 徳	池田自治連
9	奥 田 正 治	大里自治連	27	田 中 克 枝	中道自治連
10	小 澤 房 子	商工会議所	28	内 藤 司 朗	大国自治連
11	小田切 進	東自治連	29	中 村 京 子	朝日自治連
12	落 合 洋 子	公 募	30	藤 原 一 三	穴切自治連
13	小 野 明日香	公 募	31	森 みどり	甲運自治連
14	上 條 孝 子	羽黒自治連	32	矢 崎 真由美	商工会議所
15	川 邨 靖	貢川自治連	33	柳 本 タカ子	女性団体
16	菊 嶋 慶 彦	湯田自治連	34	山 田 千恵美	春日自治連
17	後 藤 貴 仁	公 募	35	米 山 夫佐子	女性団体
18	小 林 清 巳	住吉自治連	36	渡 辺 貞 男	上九一色自治連

表紙デザイン

◆ gender equity(ジェンダー エクイティ)= 男女公正

男女が同等に扱われる（gender equality=男女平等）のではなく  
状況や性差に応じて公平に機会が与えられること

◆ 「日本女性会議2021 in甲府」大会シンボルマーク

## 第7期 甲府市男女共同参画推進委員会

### 活動報告書

令和4年3月発行

編集・発行 甲府市男女共同参画推進委員会  
事務局 甲府市市民部人権男女参画課内  
甲府市丸の内一丁目18-1  
《TEL 055-237-5209》

甲府市男女共同参画推進委員会の活動は甲府市ホームページ  
女性活躍支援サイト「**甲府なでしこPlus**」に掲載されています。

<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/nadeshiko-plus/index.htm>



【ホーム > 女性活躍 > 女性団体の紹介 > 甲府市男女共同参画推進委員会の活動】